



茜雲

大口高校だより



鹿児島県立
大口高等学校

〒895-2511 伊佐市大口里2670

TEL 0995-22-1441 FAX 0995-22-9227

いざ旅立ちのとき～第78回卒業式～

3月2日、寒さの中にも春の訪れを感じられる中、第78回卒業式が挙行されました。式典では、46名の卒業生一人ひとりが登壇し、吉満校長から卒業証書が直接授与されました。

校長式辞では、「どんなに迷っていても、道は一つしかありません。あなたの前から広がる道です。その道を行くしかないのです。」と述べ、旅立つ卒業生たちの前途を“希望の鐘”を鳴らして祝福しました。

卒業生代表の堀ノ内咲良さんは、コロナの影響で中止になっていた体育祭を、全校生徒が一丸となって5年振りに復活できたことがとても嬉しかったことや、先生方や今まで一番近くで支えてくれた保護者への感謝の言葉を答辞で伝えました。

最後の校歌斉唱では、3年生は高校三年間の思いを込めて、1・2年生はお世話になった先輩へお礼の気持ちを込めて、大きな声で歌い上げました。

式典終了後は、各クラスに移動して最後のLHRが行われました。担任・副担任からはなむけの言葉の後に、一人ひとり前に出て、3年間の思い出や将来の夢などを述べました。クラスの皆へ「笑ったり、けんかしたり、部活や行事を頑張ったり、何気ない毎日が本当に楽しかった。」と笑顔で話す生徒、涙を浮かべながら、「今までたくさんの愛情を注いで、育ててくれてありがとう。4月からは親元を離れて生活するけど、これからもよろしくお願いします。」と保護者に感謝の思いを伝える生徒、先生方に「受験指導で毎日たくさんのアドバイスをくださり、支えてくださりありがとうございます。」とお礼を述べる生徒など、3年間の思いが詰まった胸の熱くなるメッセージでした。

地元に残る者、県外で一人暮らしをする者、就職する者、進学する者。4月からそれぞれの道を歩き始める皆さんの前途に、幸多からんことをお祈りいたします。



駆け抜けたレジェンド

2月23日、鹿児島県陸上界のレジェンド・永田宏一郎先生が、たくさんの声援を受けて早春の伊佐路を駆け抜けました。伊佐市役所前の中継点を7位でたすきを受け、区間3位の快走で、湯之尾中継点までの間に2人を抜き去りました。

なお、永田先生は1日目(2/21)と5日目(2/25)にも出場し、いずれも区間3位という素晴らしい結果を残しました。

横断幕を作って応援した陸上競技同好会の2年生の矢嶋和君と林優希君は、「やっぱりかっこよかった。こんなに有名な先生の下で陸上ができることは幸せです。」と感想を述べました。



(上) 横断幕を持って応援する大口高校生
(下) インタビューに答える永田先生
※ 両方ともMBC「ニューズナウ」より



【出走後の永田先生のコメント】

途中、大口高校の生徒たちの大声援があり、力強かった。前半は手を振って応援に応える余裕もあった。今日は生徒たちにいい見本、頑張る姿を見せることができてよかった。

現在は同好会で活動しているが、来年度からは部活動として本格的に高校生ランナーを育てていきたい。近い将来、大口高校陸上部の生徒と一緒に県下一周駅伝に出場し、伊佐の皆さまに喜んでもらいたい。

卒業記念書道パフォーマンス

2月27日の昼休み、書道部6名が卒業記念書道パフォーマンスを実施しました。3年生の卒業が迫るなか、部員が一丸となって一つの作品を作り上げたいという思いで企画した初めての試みです。

会場の体育館には大勢の生徒や先生方が集まり、わくわくした面持ちでパフォーマンスに魅入っていました。3年生の書道部員は一筆一筆に高校三年間の思いや学校への感謝の気持ちを込めて、1年生の書道部員は先輩からのバトンを受け継ぐ決意を込めて、力強く書きました。全員で作った作品は、まさに今年度の書道部の集大成となりました。

1年生の花立萌々子さんは、「練習の時よりうまく書けてよかった。」とほっとした表情を浮かべ、3年生で部長の武海璃君は、「最初の予定では雨天時は中止だったが、顧問の柳田先生が場所を探してくださり、実施でき感謝している。皆で協力して一つの作品を作ると、いっそう達成感が増すので楽しい。」と凛々しい笑顔で話していました。

完成した作品は、卒業式に体育館に飾り、多くの保護者や来賓に鑑賞していただきました。今回書いた「一生なんて一瞬さ」の言葉のように、あっという間に3年間という月日は流れ、いよいよ卒業です。思い出に残る一日となりました。



2年生大学進学希望者集会

2月26日、2年生の大学進学希望者を対象に集会を開きました。

進路指導主任の先生は、全国模試の成績の推移データや大学個別試験の配点を示し、今頑張ることが重要だと力説されました。

学年主任の先生は、時間感覚と自己管理能力について、目標達成のために自分を客観視し先を見越して謙虚に頑張ることの大切さについて話をされました。

日々の学習の大切さ、スマホの使い方などについての具体的な話もあり、参加者は真剣に受け止めていました。



ボランティア活動認定証

伊佐市社会福祉協議会では、個人や団体で行ったボランティア活動に対し、スタンプを付与しています。

本校生も様々な活動に取り組み、今年度は3年生の上園真由さん、2年生の小嶋春加さん、西元小町さん、宮脇柚さん、米澤優空さんの5名がスタンプが10個貯まったことで社協から『活動認定証』が交付されました。

今後の活動も楽しみです。



消費者教育・金融経済教育教室

3年生を対象とした「消費者教育教室」と「金融経済教育教室」が、それぞれ2月12日と19日に実施されました。

12日は、キャッチセールスやマルチ商法などの悪質商法や、クレジットカードの留意点などが具体的に紹介され、トラブルを未然に防ぐための方法を学びました。

19日は、人生の三大資金を考えてライフプランを立てることの大切さや、必要な資金の確保のための貯蓄や投資という資産運用法など、今後の生活に役立つ話を聞きました。一ノ宮禅君は「投資については今までネガティブなイメージがあったが、貯金以外のお金の増やし方として学ぶことができてよかった。」と話していました。



「集団読書会」

2月10日のLHRに、集団読書会を実施しました。今年度は1年生は『走れメロス』、2年生は『勝とうとするから意味がある』を読みました。

1年生は、中学校の時も読んだ生徒が多かったようですが、今回「友情」や「人を信じる心」、「何事も諦めない気持ち」などを改めて強く感じることができたようです。2年生は、スポーツの「勝ち負け」にこだわるのか、「楽しむのが一番」なのかを比較して考えた生徒や、「勝つ」というキーワードをこれからの進路決定に向けての意味に変換する生徒もいました。

読書は自分を見つめ直す絶好の機会です。これからも多くの本に触れてほしいです。



いつかは後輩や母校を支える存在に

2月27日、大口高校同窓会の田中浩太郎副会長のご臨席のもと、同窓会入会式が行われました。田中副会長は、「世の中に出ると会社をはじめ様々なコミュニティーに属することになる。その中で同窓会という存在も意識して、困ったときは遠慮なく相談してほしい。」と歓迎の挨拶をされました。

仕事でもプライベートでも困りごとや悩みごとには思い切って同窓会に頼ってください。そして、生活にゆとりができたときには、後輩や母校を支える存在になってください。



校長室の窓辺より

鹿児島大学と大口高校は、3月20日に菱刈環境改善センターでシンポジウム「伊佐の近現代～これまでの100年とこれからの100年～」を開催します。

第二部のパネルディスカッションで橋本市長らと登壇する林優希君は、本番に向けて準備に余念がありません。先日も校長室でオンラインによる事前打合せをしました。

「大口と菱刈の均衡の取れた発展」、「大口城跡整備など歴史を活かしたまち作り」、「若者が住みたいと思うまち作り、働く場所の確保」など100年後を視野に入れて伊佐市の進むべき道を提案するなど意気込んでいます。

シンポジウムの会場は菱刈環境改善センターで、午後1時開始です。参加費は不要ですので、ぜひお越しください。なお、第一部では吉満校長による歴史の講演があります。

